

中央設計技術研究所社長

Front Line 業界の最前線

中辻 英二氏

# 創立70周年 上下水道部門で北陸トップ企業



なかつじ・えいじ 富山県立技術短期大学(現富山県立大学)衛生工学科卒業後、1980年入社。以来、技術畑を歩み、2011年10月に同社5代目社長に就任、現在に至る。富山県砺波市出身、57歳。

きょう7月1日で創立70周年を迎えた中央設計技術研究所(金沢市)。1947年に高柳水道調査設計事務所として創設されて以来、水と環境のプロフェッショナルとして歩み続け、今日では上下水道コンサルタント売上高で北陸トップ企業に成長。その専門技術を強みとして、地元石川県をはじめ、国内に約40カ所の事業所・営業所を開設し、事業領域を全国に拡大している。中辻英二社長に抱負をうかがった。

70周年にあたり、「社長に就任して以来、創設者をはじめ、歴代経営者に先人の苦勞が非常によくわかる」と力を込め、「すべてに顧客第一を踏襲してきたことが、会社の信用となり、今日に至っている」と、先人各位に対して深く敬意を表す。

70周年記念事業として創立記念日の1日、社員とその家族約230人規模の記念式典を大阪のテーマパークで開催する。「60周年の時と同じく記念誌の発行も考えたが、それよりも記憶に残る1日によつて。社員が一生懸命にやってくれたのも、ご家族の皆様を支えられてきたおかげであり、ご家族を招待することにした。一泊二日と限られた時間となるが、精一杯楽しんでほしい」と笑顔で話す。

併せて、2015年から年に一度作成している社内広報誌も近く発行する。今回は70周年記念号として、会社の歩みを紹介するとともに、働き方改革などの様々な課題に対して社員同士の討論や社員一人ひとりの発表などを盛り込む予定。タイトルの『情熱とやりがい』は中辻社長自身が執筆する。

### 「地域に根ざし地元へ貢献」

中期経営計画では、2020年に売上高30億円の実現を目指しているが、「建コン大手が本格的に地方へ進出して来ており、地元コンサルと熾烈な競争を繰り広げている」と指摘。幸いにも同社の昨年度成績は好調に推移し、全国建設コンサルタント売上高では下水道部門11位、水道部門8位にランクイン。「上にはもう大手しかない。規模、価格、技術者数といい、なかなか勝てる相手ではない。今期は25億円前後の売上を想定するが、あと数年で30億円を達成できるか、相当ハードルは高い」。その差別化の意味でも、DBO方式で受注した新潟県見附市青木浄水場を例に挙げ、「設計だけでなく、デザイン・ビルド・オペレーション、維持管理という形で参入していかないと安定経営はできない」と強調、全国的にもDBO方式などの案件が増えつつあるという。

毎年実績の拡大で地方に本社があるものの、知名度が少しずつアップしていると素直に喜ぶ。今年度の新卒採用では男女問わず地元出身者10人を採用。「地域に根ざし、北陸地域に育てられた会社であり、業界全体で不足している若い技術者の育成に努めたい」と、30年先の100年に向けて新たな第一歩が始まる。